2019平和ノサップ集会アピール

　本日、私たちは北方領土返還運動の原点の地、納沙布岬に全国から結集した。

日本固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方四島が、旧ソ連により不法に占拠されてから、今年で74年が経過している。この間、日本とソ連、ロシア間で返還交渉は続けられているが、いまだに返還への道筋は見えていない。

こうした中、ロシア政府による「クリル社会経済発展計画」などにより、北方領土のロシア化が急速に進んでいる。さらに、本年8月にはメドヴェージェフ首相が4度目の択捉島訪問を強行するなど、北方四島がロシアの領土であるかのように既成事実として物事が進行している。

2016年12月の日ロ首脳会談で北方領土の共同経済活動に関する交渉を進めることが合意された。2018年5月にも日ロ首脳会談が行われ、共同経済活動の実現に向けた作業が新たな段階に入ったことも確認された。領土問題解決に向けて新たな局面を迎えているが、その具体的な方向性は見えてこない。

日本政府には、積極的なロシアへの働きかけにより、日ロ共同経済活動を着実に進め、両国の発展を通じた領土問題の解決につなげていくよう強く求める。

元島民の方々は、故郷復帰への募る想いの中で返還運動に積極的に取り組まれているが、平均年齢は80歳を超えている。一日も早く元島民に故郷を取り戻すため、運動の力を結集していこう。

そして、自然の恵み豊かな北方四島を私たち日本人の手に取り戻すため、多くの仲間と結集していこう。

連合は、戦後の大きな国民課題である北方領土問題を解決し、ロシアとの間に平和条約を締結できるよう、そして、ロシアとの間で真の友好関係を構築することができるよう、700万人組織の力を結集し民間外交の先頭に立つとともに、諸団体と連携し国を挙げて交渉に臨む体制づくりを後押ししていく。北方領土が日本に帰るその日まで、連合は粘り強く運動を継続していく。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019年9月8日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019平和ノサップ集会